

# 会議・視察報告 ■■■ Conference Reports・Inspection Visits

## ウプサラ滞在記

ERINA調査研究部研究主任 伊藤庄一

5月上旬、ウプサラ大学（スウェーデン最古で1477年創立）の中央アジア・コーカサス研究所シルクロード・プログラムに客員研究員として滞在した。シルクロード・プログラムは、世界屈指のユーラシア大陸研究機関である米国ジョーンズ・ホプキンス大学中央アジア・コーカサス研究

所の連携機関として、2002年に設立されたばかりの若い研究機関であるが、旧ソ連諸国、中東およびその他アジア全域を射程にし、エネルギーや環境、麻薬、移民、ナショナリズム、テロリズム、軍事問題等々、現代世界のホットイシューを網羅している。*Silk Road Paper* シリーズや*The China and Eurasia Forum Quarterly*といった機関誌は、全て無料でダウンロード可能であるが、いまやその情報発信の早さと質の高さに関し、専門家の間では注目的である。

筆者は今回、エネルギー安全保障問題の専門家として、日本、中国、ロシアのエネルギー関係の現状と展望に関する共同研究のために招聘された。エネルギー問題と言えば、昨今の油価高騰や地球温暖化問題を背景に、いま世界的に最も関心の高いイシューの1つであるが、地政学や外交上の論理とエネルギー経済の実態をバランスよく議論できる人材や参考文献が極めて少ないのが実状だ。この点に、シルクロード・プログラムも着目しており、人材開発と議論の場の提供拡大に向けて努め始めている。

偶然にも筆者と同時期に客員滞在したのは、国際政治経済とエネルギー問題の専門家を集結させた世界でも数少ない研究所である、英国ダンディー大学エネルギー・石油・鉱物法・政策センターで教鞭を執る中国出身のJanet Xuanli Liao博士であった。同氏は国際大学(新潟県魚沼市)にも留学経験があり、日本エネルギー経済研究所に客員研究員として滞在していた経歴を有する。世界は狭い。

シルクロード・プログラムは、ユーラシア大陸の随所に協力機関をもち、学者から軍人、政策決定者に至るまで、次から次へと訪れ、レクチャーをしていく。同プログラムのスタッフたち自身も、世界中を飛び回り、最新情報の入手に懸命だ。国内外で様々なセミナーや国際会議がオーガナイズされている。同研究所は、政策提言活動を活発に行う一方で、教育機関としての役割も果しており、世界中からの留学生も多い。

最も感銘を受けたのは、20代~30代の若者たちが中心となって、研究所の活動を基本的に企画・運営しており、幹部たちは、大枠を眺めつつも、次世代の柔軟で斬新な発想を育むことこそが、世界に役立とうとする研究所の使命だ、と真剣に考えている点であった。残念ながら、日本に類似機関は皆無だ。彼らの理念や大志に賛同するスポンサーたちが、世界中に広がりを見せている。ERINAにとっても他山の石となる、とつくづく感じた。